

エコシティ仙台プロデュースプロジェクト活動レポート

広がれ！エコ観戦

9月7日(水)宮城スタジアムで開催されたサッカー日本代表戦において、ごみ減量・分別に取り組みました。MELON にとっては、普段の活動のホームグラウンドである仙台スタジアム、フルキャストスタジアム宮城以外の“アウェイ”での初めての取り組みでした。

この日は日本代表戦ということで、いつも宮城スタジアムでボランティア活動を行っているグランディ21ボランティアに加え、仙スタ・フルスタのボランティアや一般公募の方々、総勢350名ほどのボランティアが集まりました。

この内約60名がエコステーションを担当する「エコサポート」に任命され、MELON はエコサポートの全体指揮を行いました。日本代表戦に限らず宮城スタジアムでエコステーションが設置されるのは初めてであり、観客も慣れていない中、ボランティアさんも観客への呼びかけ・対応に苦労していたようです。

今回は役割分担の都合からトイレのごみ箱など、

ボランティアが配置されずにごみ分別が行われなかった箇所もありましたが、宮城スタジアムにエコステーションを設置し、ボランティアがごみ分別を行ったことは大きな一歩であったと思います。エコステーションの認知度のアップや、スタジアム全体での取り組みなどの課題はありますが、宮城県で開催されるスポーツイベントで、環境の取り組みが広がるよう努めていきたいと思います。皆さんもスポーツ観戦の折にはぜひごみ分別にご協力ください。



エコステーション スタンバイ完了



MELON20周年をめざせ！

第8回目の執筆者

50人リレートーク



三枝孝之さん
(NPO 共育学舎)

安全で美味しい食べ物と環境に負荷をかけないエネルギーをできるかぎり自給したい。そんな思いで和歌山県は紀伊半島の山間地で農業を営む傍ら「NPO 共育学舎」を主宰しています。栽培作物はお米、野菜は勿論ですが、小麦と菜の花の栽培に力を入れています。小麦は自家製粉し、赤土で窯を作り薪でパンやピザを焼いて美味しくいただいています。

小麦栽培を赤土の窯作りとセットで普及させたいとも願っています。和歌山大学と地元の企業と協力し「菜の花エコプロジェクト」も推進しています。菜の花は自家搾油し新鮮な菜の花油をいただき、廃食油を回収しディーゼル用の燃料を自家製油し、発電機やトラクターを動かしています。

NPO 共育学舎は近所の廃校を借り、農林業を基本とした体験学習会やカヌースクールを開催しています。教室に畳を敷き、宿泊もできます。小学生や大学生一般を対象に合宿なども実施しています。地域内で食料とエネルギーをできるだけ自給できるシステムを確立する。そのためには、一人ひとりが考え方、生き方を学ぶことが基本と考え「学び舎」をつくり始めています。

現在廃校の校庭に間伐材を活用し、川原屋（木造組み立て式家屋）を設置したり、赤土の窯を大学生と一緒に建設したりしています。これからも自然の中で汗を流し、学んだことを実践したいと考えています。

..... 次号予告

次は、室實信さん。

自然環境を再生しながら田舎ならではの体験プランを提供する。地方公務員を定年を4年残して退職。生まれ育った熊野の地域で最後の日本を取り戻すのが目標。

